



理科「チョウの観察」

現在理科でモンシロチョウの観察を行っています。

モンシロチョウは春の生き物の代表で、幼虫がアブラナ科の植物を食草にしています。できるだけ生で観察できるように3月からキャベツを栽培していました。（キャベツはアブラナ科です）

モンシロチョウはかわいくて人気の身近な生き物であるのと同時に、幼虫→蛹→成虫と変化する「完全変態」の昆虫なので、理科の生き物教材にぴったりです。

幼虫を怖がる子もいるかなと心配しましたが、みんな興味津々で幼虫や蛹を探し、手に取って観察していました。





生き物の命や成長を感じる大切な学びですね。
教室で羽化したモンシロチョウ数匹を外に逃がしたとき、「またね！」とチョウたちに声をかける子どもたちの姿がとても素敵でした。

その横で、「このチョウ、トカゲのエサにしていかな〜」「さすがにそれはダメだよ〜」というやりとりがあったのもとてもおもしろかったです。

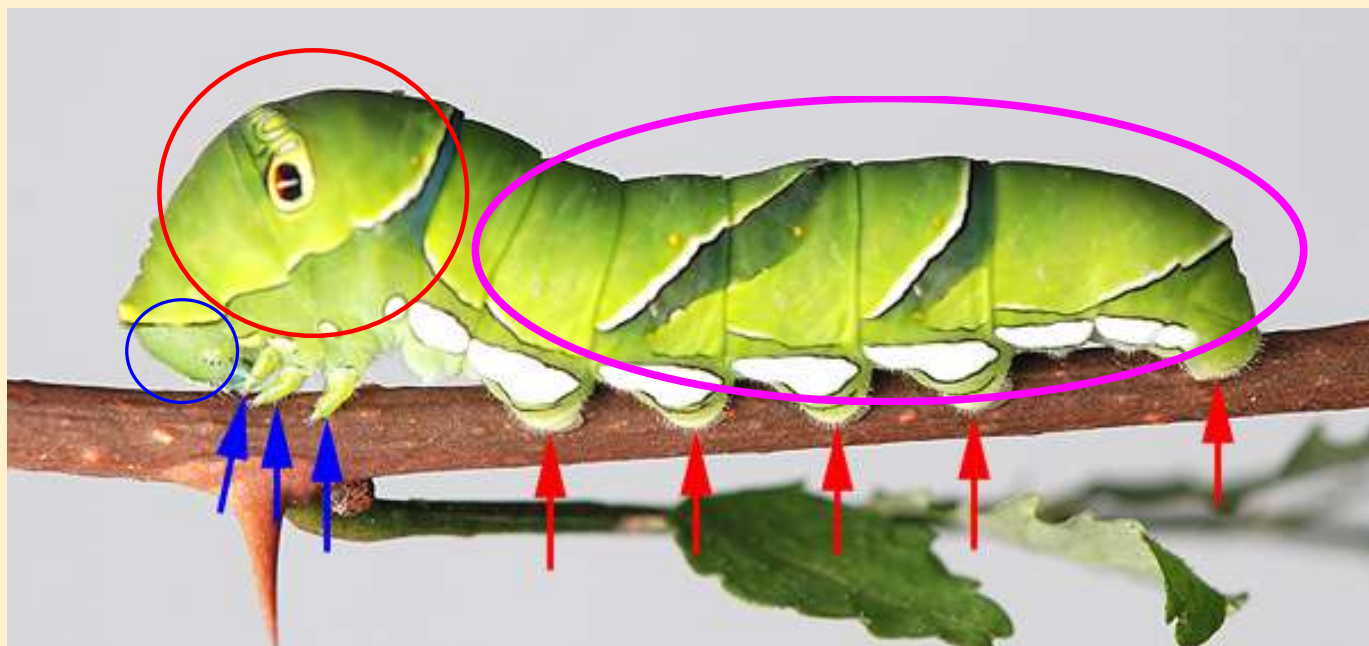
覚えてますか？昆虫の特徴

小学校で学んだ昆虫の特徴をどれくらい覚えているでしょうか。

- ①頭・胸・腹の3部分に分かれている。
- ②脚が6本ある。
- ③翅（はね）があるものが多い。（アリなど翅がないものもある）
- ④頭に目や口、触覚がある。

頭・胸・腹や脚が6本という情報は、覚えている方も多いかもしれません。しかし、幼虫はどうでしょう。

実は、幼虫も分かりづらいですが頭・胸・腹に分かれていて、脚は6本です。



【写真 ぷてろんワールド 蝶の百科事典・図鑑さんより】

これはアゲハチョウの幼虫です。

幼虫も頭（青丸）、胸（赤丸）、腹（紫丸）の3つに分かれています。

いかにも目に見える赤い丸の中の点は、実はただの模様で、本当の目は青丸の中にあります。

脚もたくさんあるように見えますが、本当の脚は胸脚と言われる青矢印の6本だけです。（残りの脚のように見えるものは「腹脚」「尾脚」と言われる体の一部が変化したものです）

幼虫の歩く様子を観察すると、胸脚と腹脚の動き方が違うので、とてもおもしろいので、もし幼虫を見かけたらぜひ親子で一緒に観察してみてください。

また、子どもが幼虫や毛虫を見つけて、「これ何？」と聞かれた場合は、見つけた草の名前とセットで検索すると分かることが多いです。

私も、先週突然見せられた知らない毛虫を「ヨモギ 食草 チョウ」と検索して「ヒメアカタテハ」というチョウだと突き止め、とてもうれしくなりました。

知らないことを知れるって楽しいですね。